

2020年卒
Vol.11

10月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2020 学生モニター調査結果 (2019年10月発行)

正式内定解禁(10月1日)を迎え、内定状況はどのように変化しただろうか。キャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は9割を超えた(90.5%)。今期は内定を獲得するペースがかなり早まったが、この10月には前年と同率に落ち着いた。また、今回は中小企業への応募状況や、就職活動費用などに関する調査結果も紹介したい。

(2020年卒・定期調査 最終回)

1. 10月1日現在の内定状況

- 内定率は90.5%。8月調査(88.2%)から2カ月間の伸びは2.3ポイント
- 前年同期実績(90.5%)と同率
- 就職活動終了者は全体の88.2%で、前年同期(87.5%)よりやや増加。継続者は1割強

2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定

- 「就職先が決まるまで就職活動を続ける」56.1%
- 「大学院進学」が2割超。理系男子の半数が選択

3. 中小企業への選考応募状況

- 中小企業の「面接試験を受けた」経験をもつ学生は57.3%。年々減少傾向
- 中小企業を受けた理由は「やりたい仕事に就ける」46.8%、「会社の雰囲気がよい」42.3%
- 受けていない理由は「給与・待遇が良くない」44.3%、「安定性に欠ける」42.0%

4. 内定後のフォローと内定者研修

- 企業に望むフォローのペースは「1カ月に1回程度」30.0%、「2カ月に1回程度」25.0%の順
- 内定期間中の研修や課題には56.6%が賛成。文理差は小さいが、文系学生でより肯定的

5. 就職活動の費用

- 平均136,867円。前年調査より約千円増加するも、最安だった前年に次ぐ低い金額に
- 総額が最も高いのは「北海道」(233,525円)、最も低いのは「関東」(113,868円)
- 「全額自分で工面した」41.9%、「親に出してもらった(返済しない)」48.3%

調査概要

- 調査対象 : 2020年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
回答者数 : 1,127人(文系男子351人、文系女子329人、理系男子304人、理系女子143人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2019年10月1日~9日
サンプリング : キャリタス就活2020学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

1. 10月1日時点の内定状況

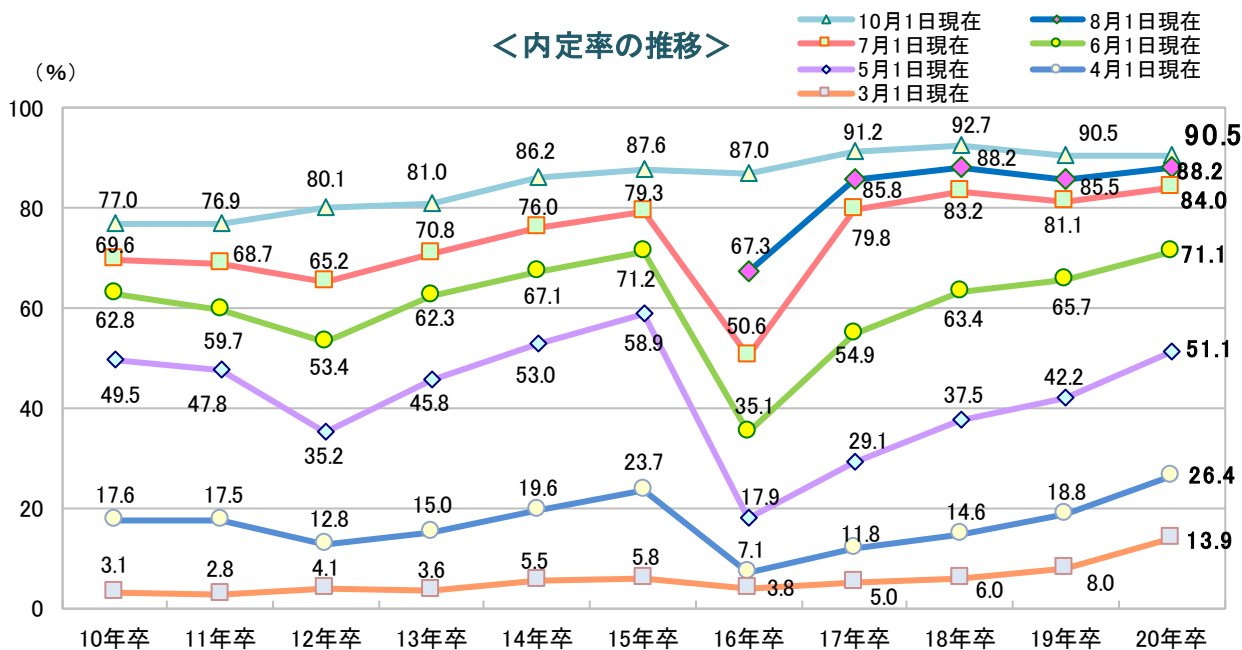
10月1日現在の学生モニターの内定率は90.5%。前回調査(8月1日時点)の88.2%から2.3ポイント伸び、今年も9割を超えた。今期を振り返ると、序盤から前年同期を上回る内定率をマークしてきた。8月も引き続き前年を上回り、企業の採用意欲が高い状態が続いていたが、後半になるにつれ就職以外の進路を模索する未内定学生の存在もあり、この10月時点で前年と同水準に落ち着いた。17年卒、18年卒の数字には届かなかった。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは95.3%。モニター全体を分母にとると、調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は86.2%(グラフは次ページ)。複数内定を保留しているなど未決定である者(2.0%)を合わせると活動終了者は88.2%となり、前年同期(87.5%)をやや上回った。

<10月1日現在の内定状況> *「内定」には、内々定を含む

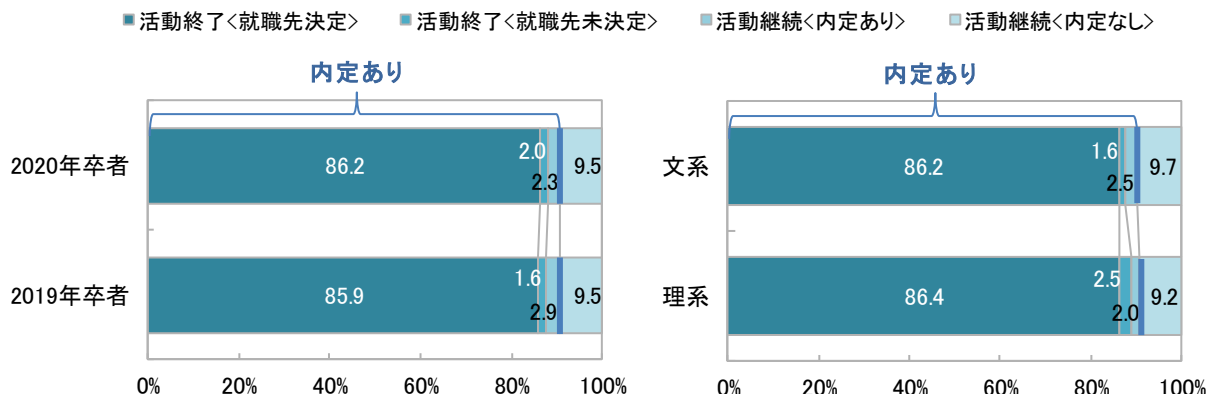
		内定率 (%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		90.5 (90.5)	87.2 (89.1)	93.6 (93.3)	87.5 (88.6)	97.9 (91.2)
内定なし		9.5 (9.5)	12.8 (10.9)	6.4 (6.7)	12.5 (11.4)	2.1 (8.8)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	95.3 (94.9)	93.8 (95.2)	97.1 (94.4)	95.5 (95.2)	94.3 (95.2)
	活動は終了したが複数内定保持	1.0 (0.7)	1.6 (0.3)	0.6 (0.9)	1.1 (0.0)	0.0 (2.1)
	進学などの理由で就職活動を中止	1.2 (1.1)	1.0 (0.3)	0.3 (0.6)	1.9 (2.9)	2.1 (0.7)
	就職活動継続	2.5 (3.2)	3.6 (4.2)	1.9 (4.0)	1.5 (1.8)	3.6 (2.1)
内定社数/平均		内定社数 (社)				
		2.3 (2.3)	2.3 (2.3)	2.4 (2.4)	2.1 (2.3)	2.1 (2.2)

※ () 内は前年(10月1日現在)の数値



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~19卒は6月 ※15年卒以前は8月のデータはなし

<活動状況の分布(2カ年／文理別)>



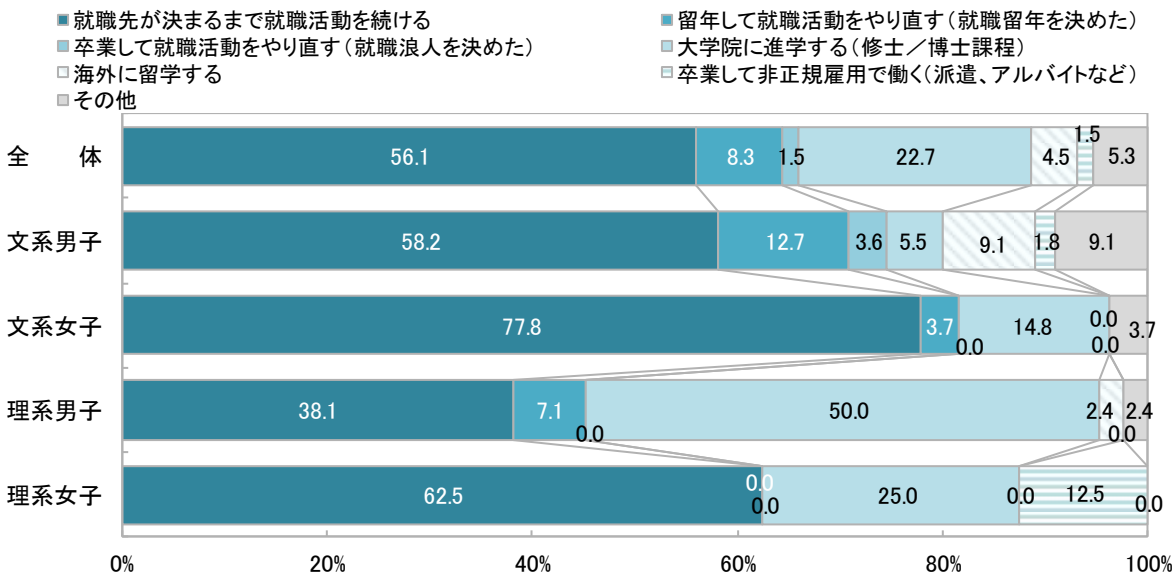
2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定

10月1日時点で就職先が決まっていない学生（モニター全体の11.8%）に、今後の予定を尋ねた。

「就職先が決まるまで就職活動を続ける」という回答が半数強で最も多いが（56.1%）、就職以外の進路を考えている者も少なくない。「大学院に進学する」が全体の2割を超え（22.7%）、より専門的な学問を修得してから就職したいと考える層も一定数いるようだ。とりわけ理系学生において顕著で、理系男子では50.0%に達する。

「卒業して就職活動をやり直す（就職浪人を決めた）」と「卒業して非正規雇用で働く」がともに1.5%で、非正規雇用や未就業のまま卒業しても構わないと考える層は合わせて3.0%とごくわずか。

<就職先が決まっていない学生の今後の予定>



■進路未決定学生の声

- 通年で採用しているところもあるし、アルバイトからでも良いので希望の会社、職種につきたい。 <文系男子>
- 就職先が決まらなないと生きていけないし、就職しないと親や親戚に申し訳ない気持ちがある。 <理系女子>
- 学問をもう少し極めたいので大学院に進学する。 <理系男子>
- 自分の知識をより深めたいと考えるようになり、9月に大学院試験を受け合格した。 <文系男子>

3. 中小企業への選考応募状況

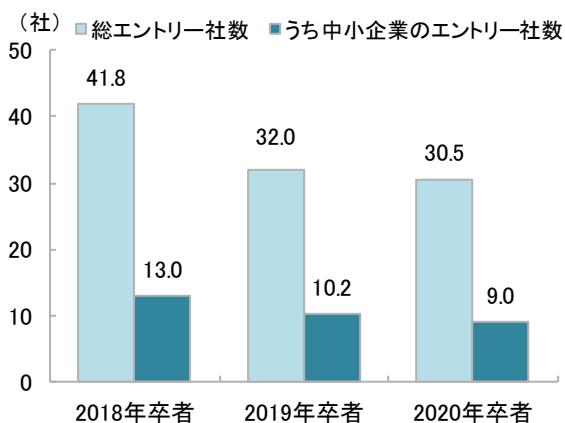
全員を対象に、従業員 300 人未満の中小企業への応募について尋ねたところ、「中小企業にエントリーした」が約 6 割 (62.8%)、「中小企業の面接試験を受けた」(57.3%) とともに、減少傾向。

中小企業へのエントリー社数の平均は 9.0 社で、前年調査 (10.2 社) より 1.2 社減少。前々年 (13.0 社) からは 4 社減少した。総エントリーに占める中小企業の割合は約 3 割で大きな変化はないが、総エントリー社数の減少に伴い、中小企業へのエントリー社数も減少した。

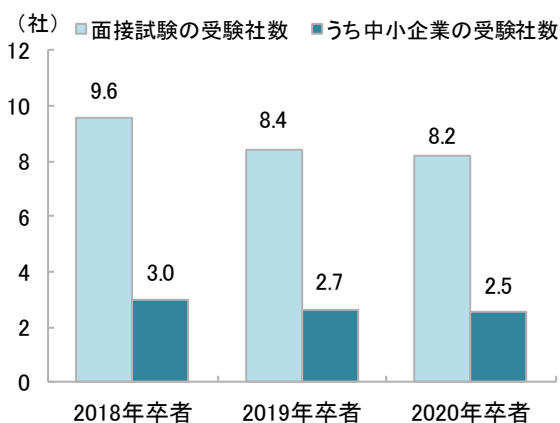
面接受験社数は平均 2.5 社。面接社数も徐々に減少している。中小企業にとって、まずは学生に知ってもらい、エントリーしてもらうことが重要と言えるだろう。

	(%)				(%)		
	2018年卒者	2019年卒者	2020年卒者		2018年卒者	2019年卒者	2020年卒者
中小企業にエントリーした	67.4	66.1	62.8	中小企業の面接試験を受けた	60.8	59.8	57.3

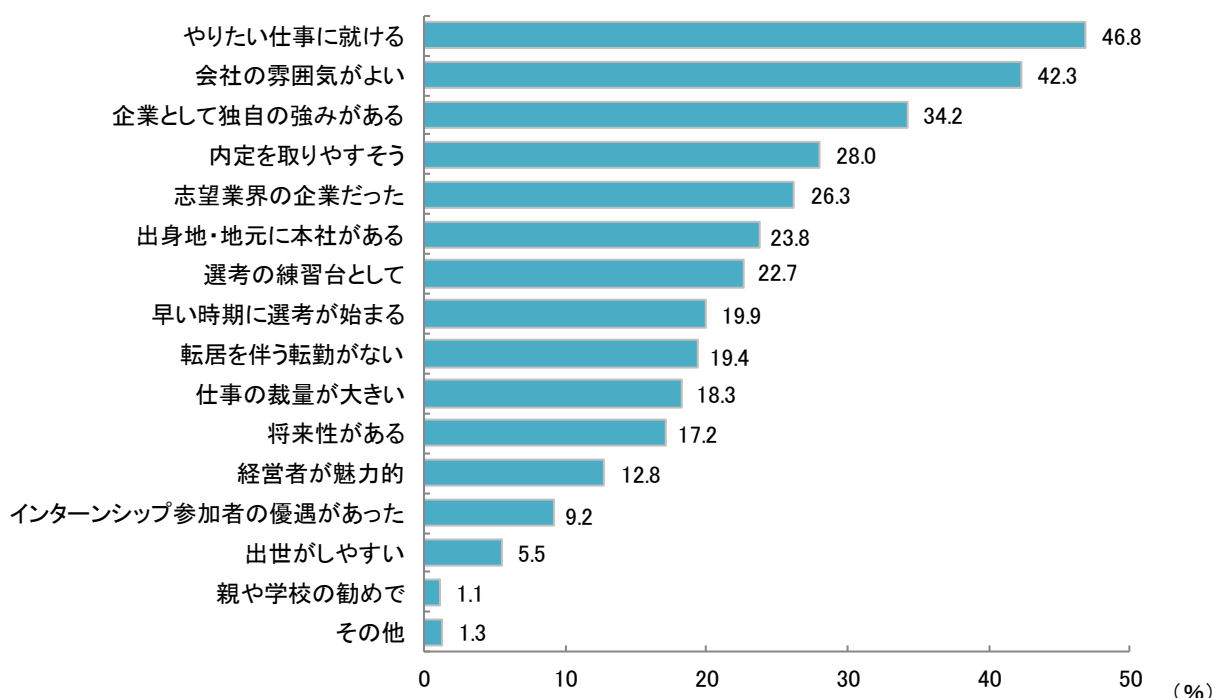
<エントリー社数>



<面接試験受験社数>



<中小企業を受けた理由>

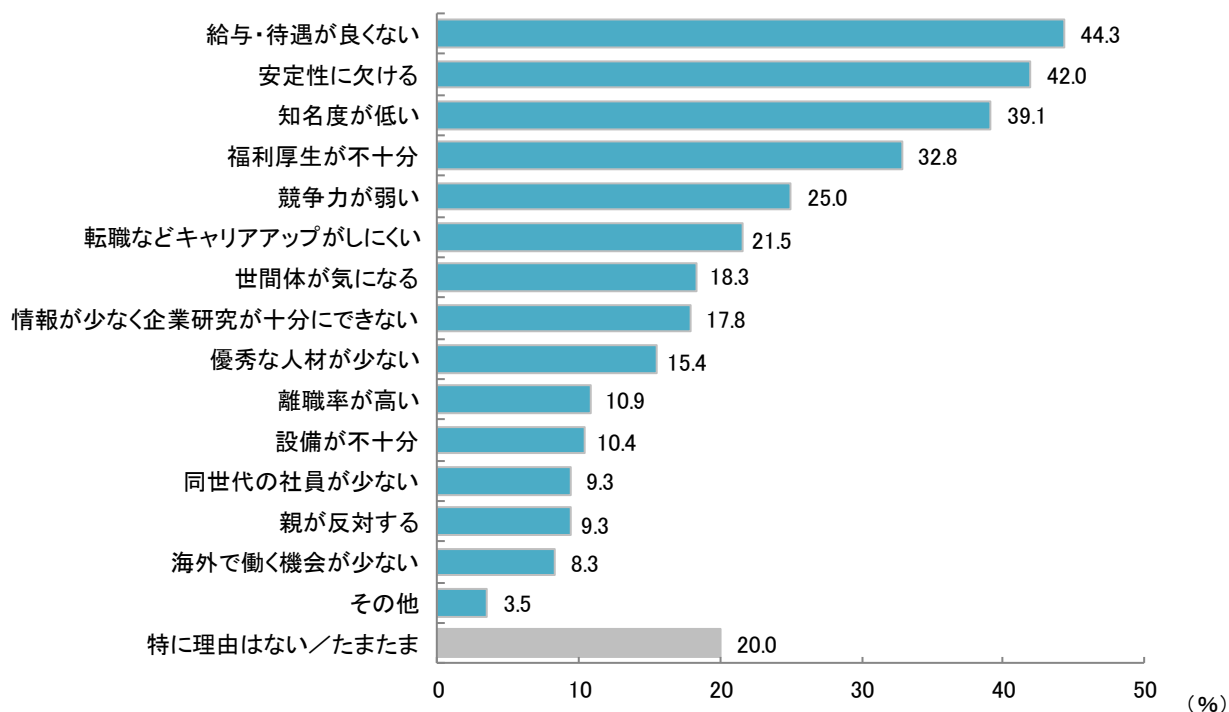


中小企業を受けた理由を見ると(グラフは前ページ)、「やりたい仕事に就ける」(46.8%)、「会社の雰囲気がいい」(42.3%)と続いた。また、「内定を取りやすそう」「選考の練習台として」も比較的多く、大手企業の面接の練習や滑り止めとして中小企業を受検する学生も少なくないことがわかる。

一方、中小企業を受けていない学生(モニター全体の37.2%)に、その理由を尋ねると、「給与・待遇が良くない」(44.3%)、「安定性に欠ける」(42.0%)、「知名度が低い」(39.1%)、「福利厚生が不十分」(32.8%)までが3割を超えており、条件面での懸念が中心であることがわかる。

また「特に理由はない」が2割に上り(20.0%)、大手志向の学生を中心に、中小企業まで視野を広げることなく就職活動を終了した学生が一定数いたことが推測される。寄せられたコメントを見ると、選考時の対応は大手より高く評価するものの、それ以前に「情報が少ない」「発見しづらい」という声も多い。自社の強みや魅力をしっかり発信する必要があるようだ。

<中小企業を受けていない理由>



■中小企業を受けた印象

- 大手企業と比べて経営者と距離感が近いように感じました。会社の今後などについてトップの話を知ることができ、非常に参考になりました。 <理系男子>
- 雰囲気がアットホームで働きやすそうだった。研修や福利厚生がもっと充実すると良いと思う。 <文系女子>
- 自分の意見が通りやすそうであった。そのためやりたい事ができる環境だと感じた。 <文系男子>
- ニッチな分野で世界に認められる技術を有した企業もあり、その点ではやりがいのある仕事ができると感じた。 <理系男子>
- 中小の場合は、自分から主体的になって探さないといけないから大変だった。 <文系男子>
- 大手よりも近い距離で選考を行ってくれた点と選考が短い点は非常に良かったが、実際に働いている社員の方から話を聞く機会は少なかったのが残念だった。 <文系男子>
- HPで得られる情報が大手に比べると少なく、実態を想像しにくいところがあった。 <理系女子>
- 大手に比べて志望者が少ないが、他の人もその企業の良さを理解して受けている人が多かった。 <理系男子>

4. 内定後のフォローと内定者研修

就職活動を終了した学生に、内定後、企業にどのくらいのペースでフォローしてもらいたいと思っているのかを尋ねた。最も多かったのは「1カ月に1回程度(毎月)」で30.0%。次いで「2カ月に1回程度(隔月)」25.0%と続き、「3カ月に1回程度」が17.0%。

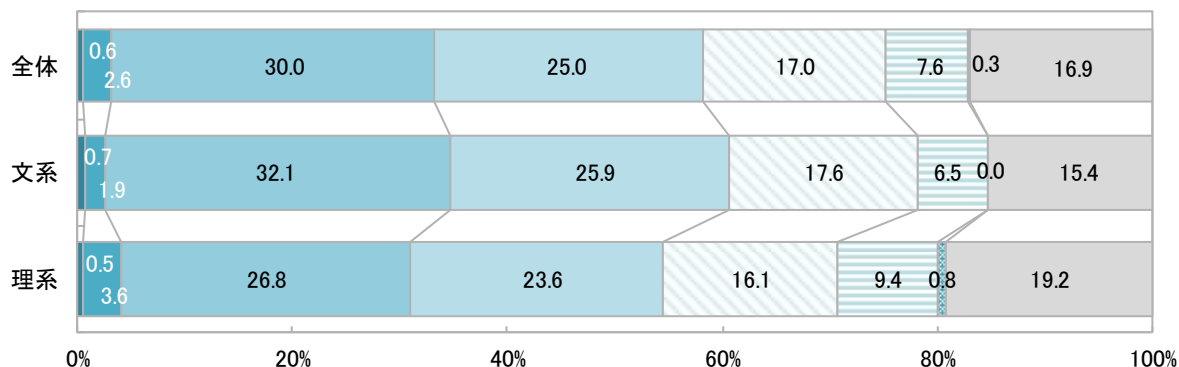
一方で「基本的にフォローは必要ない」という回答も1割強(16.9%)。「フォローは必要ない」と回答した学生は、文系15.4%、理系19.2%と、理系のほうが3.8ポイント多い。希望するフォローのペースも、全体的に理系学生のほうが頻度は低く、頻繁なフォローは望まない傾向が表れている。就職活動終了後は、卒業論文・卒業研究に注力する理系学生が多い傾向があり、学業の妨げにならない範囲にとどめてほしいと考えている様子が見える。

また、内定期間中の研修や課題が出ることについての考えを尋ねたところ、「基本的に賛成」16.9%と「どちらかといえば賛成」39.7%を合わせ過半数(計56.6%)が賛成との意向を示した。語学の学習や資格取得など、自己啓発へのサポートを企業に望む学生は少なくないようだ。文理で大きな差はないものの、文系学生では賛成が合わせて57.5%と、理系学生(計55.1%)に比べてやや高く、文系学生の方が内定期間中の研修・課題に肯定的だ。

いずれにしろ、学生の負担にならないよう、それぞれの状況を踏まえた対応を心掛けたい。

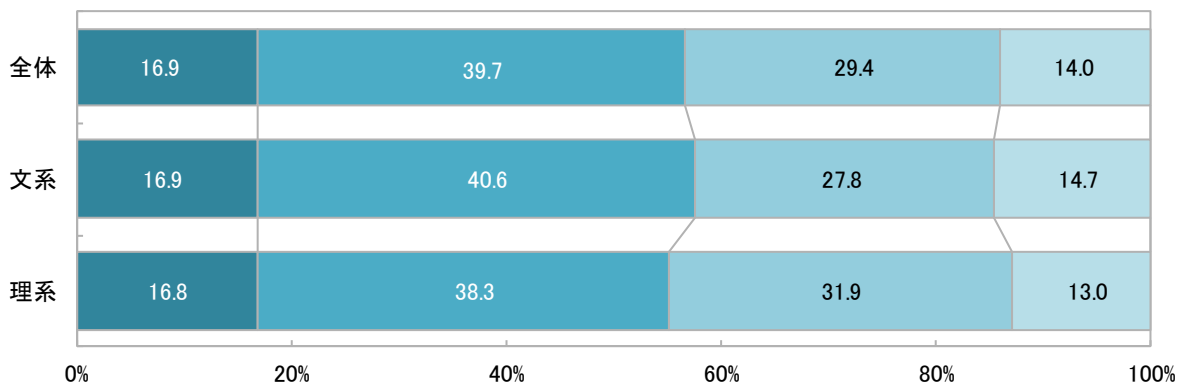
<企業に希望する内定後フォローのペース>

- 1週間に1回程度(毎週)
- 2週間に1回程度(隔週)
- 1カ月に1回程度(毎月)
- 2カ月に1回程度(隔月)
- 3カ月に1回程度
- 半年に1回程度
- それ以下のペース
- 基本的にフォローは必要ない



<内定期間中に研修や課題が出ることへの考え>

- 基本的に賛成
- どちらかといえば賛成
- どちらかといえば反対
- 基本的に反対



5. 就職活動の費用

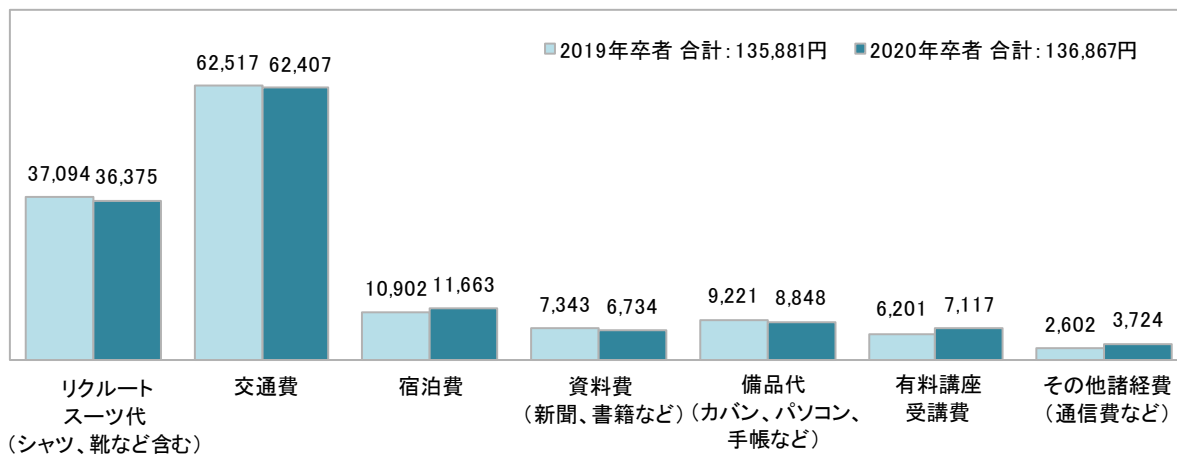
モニター学生全員に、就職活動にかかった費用について、「リクルートスーツ代」「交通費」「宿泊費」「資料費」「備品代」「有料講座受講費」「その他諸経費」の7つの項目ごとに金額を尋ねた。各項目の平均を算出し足し上げると136,867円となり、前年調査(135,881円)より約千円(986円)増加した。前年は、2009年(2010年卒)に就活費用を調査し始めてから最も低い金額だったが、それに次ぐ低い金額だった(就活費用の推移は次ページにグラフ掲載)。

項目ごとでの大きな変化は見られず、就活費用のうち最も多くを占める「交通費」は前年に引き続き6万2千円台(62,517円→62,407円)。2011年卒者への調査では8万円を超えていたが(81,531円)、新卒市場が学生に優位な売り手市場に変化し、一人当たりの受験企業が減ったことや、WEBセミナーやWEB面接などIT化が進んだことで、交通費は減少傾向にある。また、企業から交通費の支給を受けた学生は約8割に上り(79.6%)、これも費用を抑える要因となっている。

全体の費用を地域別に見ると、平均額が最も高いのが「北海道」で、233,525円と20万円を超えている。続く「東北」「中国・四国」「九州・沖縄」は17万円台。地方は交通費の額が多く、「北海道」は12万円を超え、「東北」「中国・四国」は9万円台に上る。全体の金額が低いのは「関東」(113,868円)。交通費・宿泊費の違いが合計額に大きく影響している。

就職活動費用の出どころを尋ねると(グラフは次ページ)、アルバイトなどで「全額自分で工面した」は4割程度で(41.9%)、「親に出してもらった(返済しない)」が半数近くに上る(48.3%)。親の負担額は平均82,059円。就職氷河期に比べ下がったとは言え、平均13万円を超える金額は学生が数カ月間に使う額としては高額であり、工面が難しい学生も少なくない。

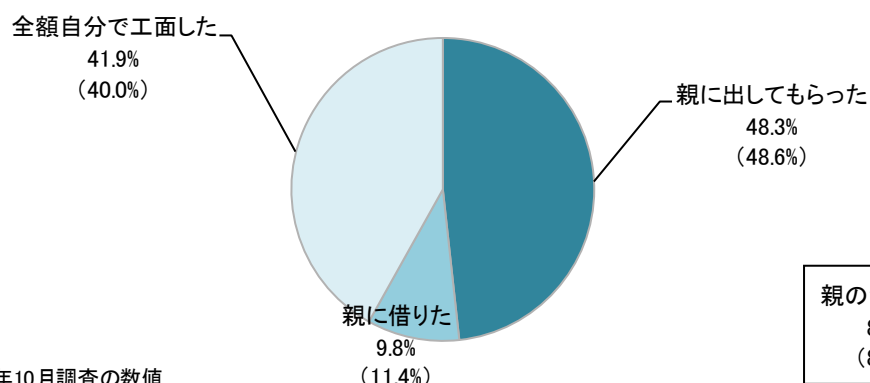
<就職活動の費用(平均)>



(円)

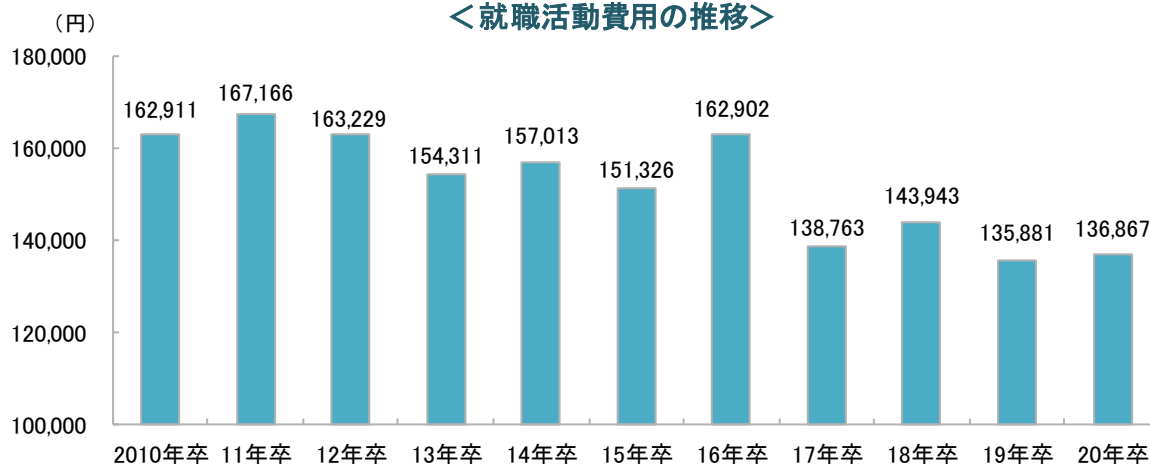
	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
合計	233,525	179,473	113,868	141,520	130,263	174,115	172,958
リクルートスーツ代	42,850	42,484	38,354	35,935	33,992	25,148	33,393
交通費	123,625	92,266	43,166	65,450	64,534	95,590	83,845
宿泊費	42,500	23,922	2,767	14,155	10,937	31,139	21,607
資料費	9,550	4,927	6,470	9,482	5,628	4,057	8,476
備品代	8,425	9,859	9,653	6,888	9,497	3,754	9,057
有料講座受講費	4,500	3,594	9,255	7,020	3,195	10,656	8,095
その他諸経費	2,075	2,422	4,203	2,590	2,480	3,770	8,485

<就活費用の出どころ>



※()内は2018年10月調査の数値

<就職活動費用の推移>



■就職活動の費用について

- 地方学生が大手狙いで就活する場合、想像以上にお金がかかるんだと思いました。お金が足りず、親を頼りっぱなしです。金銭面はとても苦しかったです。 <九州・男子/総額 275,000 円>
- 東京に住んでいたのがかなり楽だったが、意外と交通費がかさむのと、パソコンが壊れていたためタブレットを買い、スーツを2着、靴、シャツなどを、買ったらかなりお金を使っていたことに気づいた。 <関東・男子/総額 280,000 円>
- 交通費を支給していただける企業が多く、費用負担は少なかったと思う。 <関西・男子/総額 138,000 円>
- 祖母の家に住まわせてもらって、最低限の費用でやりくりしました。とは言え、後半は苦しくなってきたため、アルバイトも始めました。 <北海道・女子/総額 87,000 円>
- 就活のために貯金しておいてよかった。本当の意味で自分の力で就職できたと感じた。メーカーは金払いが良かったが金融はあまりくれなかった。 <中部・女子/総額 410,000 円>
- リクルートスーツが高すぎると感じました。塾講師のアルバイトで着ているスーツが何着かあるのに、真っ黒のスーツを用意するのが無駄に感じて仕方ありませんでした。 <中部・女子/総額 92,000 円>
- 交通費はもちろんですが、SPIの問題集なども一冊が高かったです。また、スーツ以外にもオフィスカジュアルに合わせるためにジャケットやシャツも購入しました。 <関東・男子/総額 100,000 円>
- 将来のための投資だと思えば安くない…と言いたいところだが、やはりアルバイトができない中でこの出費は痛かった。 <関東・女子/総額 70,000 円>